

## 地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称  
伊勢湾再生研究プロジェクト
- 2 地域再生計画の作成主体の名称  
三重県
- 3 地域再生計画の区域  
三重県の伊勢湾流域及び伊勢湾。詳細は別紙による。

### 4 地域再生計画の目標

伊勢湾は、その周辺地域の気候、大気循環、水循環、生態系および経済活動と深い関わりを持っており、その存在自体がかけがえのない資源・資産である。中でも、伊勢湾流域では、古くから山海の幸に恵まれ、地域の重要な地場産業である漁業や農業、交易などの人々の営みが活発に行われ、地域独自の文化が育まれるなど、人は伊勢湾から多くの恵みを楽しんできた。

その後も、伊勢湾流域では、国土の中央に位置する地理的条件や交通条件を背景に、沿岸区域に個性ある「まち」が発達し、多様な産業や文化が育まれ、我が国の歴史を形作るうえで重要な位置を占め続けてきた。

しかし、1960～70年代の高度経済成長期における工業化や都市化の一層の進展により周辺陸域から多量の有機物負荷を受け、また、干潟や浅海域の埋め立て等により環境保全機能が著しく損なわれてきた。その結果、現在においては、赤潮の多発や海底のヘドロによる貧酸素水域の拡大等、環境悪化の進行に伴って、底生の貝類や魚類およびエビ・カニ類などの漁獲量の低下が大きな問題となっている。

こうした状況を踏まえ、三重県では、伊勢湾の環境保全や漁業の振興などを図るために、水質の改善、藻場・干潟の造成や自然浄化機能についての研究、資源管理型漁業の促進などに取り組んでいるところである。

このような取組をさらに進め地域活性化につなげていくためには、大学等と連携し科学的なアプローチによつて的確に伊勢湾の環境を把握するとともに、未解明な点に関する調査・研究等を一層進め、それらの成果を具体的な取組に反映させていくことが必要である。

そこで、「伊勢湾再生研究プロジェクト」として、三重大学、四日市大学、三重県が連携し、海洋学、生物学はもとより沿岸区域を対象とした環境科学および社会科学までも含めた総合的学際研究体制を構築し、全国の半閉鎖性

内湾域の環境再生事業に応用可能な研究成果を生みだすとともに、国や地方公共団体に対し科学的かつ具体的な技術提案を行い新たな行政施策へ反映させ、海域および周辺陸域の環境保全と漁業生産活動が調和した新たな環境を創生することを目的とする。

(目標)

「伊勢湾再生研究プロジェクト」での研究成果に基づく技術的な提案件数  
平成21年度 3件

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5 - 1 全体の概要

伊勢湾再生研究プロジェクトは、伊勢湾及び周辺陸域の環境保全と漁業生産活動が調和した新たな環境を創生するため、三重大学、四日市大学、三重県が連携し、環境系、生物系、社会系の三つのグループで構成される伊勢湾再生研究プロジェクト推進会議を立ち上げ、環境保全と漁業資源の回復、地域の再開発・活性化を目的とした研究を行い、その成果を行政施策に反映させるとともに、全国の半閉鎖性内湾域の環境再生事業に応用可能な研究成果を生み出すものである。

### 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業 該当無し。

### 5 - 3 その他の事業

【B0804】国立大学法人における地域振興、地域貢献関連事業  
(学術研究関係)(文部科学省)

#### (1) 事業名称

伊勢湾再生研究プロジェクト

#### (2) 実施主体

三重大学、四日市大学、三重県

#### (3) 実施期間

平成19年度～平成21年度(3年)

#### (4) 取組内容等

伊勢湾再生研究プロジェクトは、三重大学、四日市大学、三重県が連携し、環境系、生物系、社会系の三つのグループで構成される伊勢湾再生研究プロジェクト推進会議を立ち上げ、半閉鎖性海域の環境再生に関する研究を実施する。

伊勢湾再生研究プロジェクト推進会議は、プロジェクト全体

を統括する。

環境系グループでは、伊勢湾の潮流等の状況や水温等の海洋状況、底質、水質および陸域から流入する汚濁負荷について研究を行い、半閉鎖性内湾域の特性について現況把握と環境予測数値モデルの開発を行う。

生物系グループでは海洋生物について研究を行い、底質、干潟、藻場、プランクトン、魚類などの現況把握とこれらの間の物質循環モデルを構築し、生物学的観点から干潟、藻場等の浄化機能の見積もりを行う。

社会系グループでは、水産経済、環境政策、生物資源の物流及び地域とのネットワークについて研究を行い、上記環境系、生物系グループから出されたデータに対し、地域との合意形成と社会環境の観点から、環境、生物の分野と共同して、優先順位を付けたうえで、具体的かつ科学的な行政施策への提案を行う。

#### 〔平成19年度に実施する事業内容〕

初年度は伊勢湾の現況を把握すると共に、伊勢湾再生の物理、生物学的な問題点の抽出、およびそれを解決するための方策についての検討を進める。

そのために各グループで以下の課題について研究を行う。

##### 環境系グループ

初年度は伊勢湾の物理学的現況を把握すると共に、次年度以降に開発される伊勢湾シミュレーターモデルの開発を開始する。

##### 生物系グループ

初年度は伊勢湾の生物学的現況を把握すると共に、次年度以降の中心課題である伊勢湾の物質循環と浄化、および有用漁業資源の開発に関する基礎的データの蓄積をはかる。

##### 社会系グループ

伊勢湾沿岸域の市民、漁業者、企業、行政、研究者が協働して、循環、持続性を目指す地域環境の新しい管理方法の策定を目指す。そのための伊勢湾ネットワークを立ち上げる。

#### 〔平成20年度に実施する事業内容〕

伊勢湾で行われる環境再生事業について、具体的かつ科学的データの抽出および課題の検討を行う。そのために各グループで以下の課題について研究を行う。

##### 環境系グループ

伊勢湾環境シミュレーターを動かすためのファクターの解析および環境予報システムを構築する。

生物系グループ

漁業資源の有効利用のための資源管理方策の策定、および藻場造成や干潟造成を用いた沿岸再生技術を開発する。

社会系グループ

行政、漁業者、市民、研究者が共同して取り組める伊勢湾再生のための行政的、法政的整備を提案する。

〔平成21年度に実施する事業内容〕

最終年度として、本研究の目的である、科学的かつ具体的な技術提案を行い、水域の浄化、漁業資源の回復、地域の再開発や活性化などを図るための新たな行政施策を提案し、海域および周辺陸域の環境保全と漁業生産活動が調和した新たな環境を創生するための「伊勢湾環境再生・保全事業」に反映させる。

環境系グループ

伊勢湾環境シミュレーターからのデータを基にし、現況での伊勢湾環境の解析、および環境再生のための方策をとった場合の予測データを提供する。

生物系グループ

漁業資源管理および藻場・干潟の造成などの海域再生技術を基に、科学的見地から判断した伊勢湾環境再生技術を提案する。

社会系グループ

環境系グループおよび生物系グループからの技術提案、地域ネットワークで議論された伊勢湾再生のための社会的提案を基礎にし、優先順位を付けた上で、伊勢湾再生のための具体的提案をまとめる。

(5) 期待される効果

県と大学が連携し本事業を実施することにより、県としては、伊勢湾の再生に向け、大学の持つ専門的知見等を活用できるとともに、伊勢湾再生研究プロジェクト推進会議からの提案により以降の施策展開に反映させることが期待できる。また、大学にとっては、地域の抱えている課題である伊勢湾の再生のために、実践的な研究を行い地域に還元するとともに、地域に開かれた存在として地域全体の発展に一層寄与することが期待できる。

6 計画期間

平成19年度～平成21年度（3年）

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

三重大学、四日市大学、三重県で構成する伊勢湾再生研究プロジェクト推進会議を設置し、当推進会議において、本地域再生計画終了後、達成状況の評価を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し